

— ノート —

女子短大生に対する防災教育の取り組み

— グループワークによる授業の実践 —

古 田 貴美子

An Approach to Disaster Prevention Education for Women's Junior College
Students :

An Example of Practice Group Work in Classes

Kimiko FURUTA

要 旨

本学総合生活学科1年次生必修科目「総合生活論」のオムニバス1回の授業を、筆者は「家庭科との関連で防災を考える」をテーマに行っている。今年の課題は、『災害時に非常持ち出しするものを考える』として、グループワークを主とした、通常の講義とは異なる展開で計画した。授業の目標が達成されたかどうかを、学生のワークシートの自己評価ならびに記述箇所から推測し、話し合いによる学習効果を確認した。授業の内容の理解と話し合いへの参加度の自己評価は非常に高く、気づきも多く見られた。生活に必要な物は何かを考えるとともに日常備えることの大切さに気がついたことが、記述より明らかになった。

キーワード：防災教育，家庭科，非常持ち出し袋，グループワーク

1. はじめに

学校における防災教育はさまざまな教科との関連で行われているが、家庭科は生活と関係が深いことから、防災教育に最も適した教科といえる。東日本大震災の起こった2011年以降、日本家政学会、日本家庭科教育学会においても、震災時対応¹⁾や防災対策、家庭科授業による生きる力の養成^{2),3)}など、さまざまな提言がなされている。筆者は、総合生活学科で家庭科の教員養成を担当しており、学科1年次生 前期の必修科目「総合生活論」において、家庭科の視点に立ち、オムニバス1回の授業を担当している。そこでは、震災への備えや防災に関連する授業を行っている。本学の学生の中には、何らかの形で阪神・淡路大震災に関する授業を受けたことのある学生も多く存在すると思われるが、実際に被災の経験はない世代である。

90分1回という時間の制約がある中で、効果的な授業方法を検討したいと考えている。今年度、図書館3階にライブラリー・コモنزが完成したこともあり、その設備を使用して、グループの話し合いを含む授業を実践した。

2. 授業計画

「総合生活論」において、筆者は専門である被服に関わる内容「生活と衣服」（第5回）と家庭科との関連から「生活の課題と実践」（第14回）をテーマとして、2回担当している。

第5回の授業後に、第14回の予告と事前課題を示した。

90分1回の単発型授業なので、学生自身が考えること、生活の大切さに気づくことを重視した。自分一人では気がつかないことも多々あるので、グループで話し合うことによって、想像力を高めることもねらいの一つである。

(1) 目標

① 授業の内容について

（知識・理解）日常生活に必要なものを確認し、生活における優先順位をつける。

（意欲・態度）いざという時に、自分のことだけでなく他の人を支援する。

（想像力） 日常と異なる状況を想像する。年齢が異なる人の生活に思いを巡らす。

② 学習活動について

（意欲・態度）積極的に課題に取り組む。

（コミュニケーション力）グループ（5人程度）で発表する、話を聞く、進行役になる。

（表現力） ワークシートに文章で表現する。画用紙にわかりやすく描く。

(2) 授業の概要

授業日時：2015年7月14日（火）2限 「総合生活論」第14回

受講者：総合生活学科 受講者113名（履修登録者 127名）

テーマ：災害が起こったとき、数日間生き抜くために必要なものは？

内容：非常持ち出し袋（リュックサック1個）に入れるものを考える
リュックサック…1人で背負えるくらいの大きさ

事前課題：2015年5月19日（火）にプリント配布（予告と課題提出用を兼ねる）

1. 災害が発生したときの、家族との連絡方法・避難場所について話し合う。
2. 震災や防災に関する本を1冊以上読む。課題提出日は、7月14日とした。

(3) 授業の準備

- ・ 授業予告 掲示（事前課題、授業内容、持ち物等）
- ・ 図書館との打ち合わせ（ライブラリー・コモンズ使用時間、授業内容等）
- ・ ワークシート・配布プリント作成

(4) 授業時配布物

- ① グループ分け表（全員に配布）
- ② ワークシート（全員に配布）
- ③ 袋の中身カード（神戸女子短大図書館・橋職員作成）（グループで1組貸し出し）

- ④画用紙（四つ切り，グループで1枚）
- ⑤色鉛筆（彩色道具を持たないグループへ貸し出し）

3. 授業実践

学生たちは，通常の授業教室であるB403教室（AVホール）に集合し，①と②のプリントが配布された。（図1，図2）①のプリントには，本時の課題と授業の流れ，評価方法（課題30%，ワークシート40%，ポスター30%），グループ分けを示している。今回は，非常持ち出し袋を持つ人の想定年齢を18歳女性（大学生），35歳女性（幼児あり），70歳女性（持病あり）とし，この3パターンを各グループに割り当てた。

本時の授業内容，教室の移動，グループ分け，評価基準，提出物などの説明を受けた後，まず1人で課題について考え，ワークシートに記入した。グループ全員が記入を終えた後，図書館3階ライブラリー・commonsへ移動した。AVホールからライブラリー・commonsは1階下りるだけで非常に近く，グループごとの移動だったので，混み合うことなく入館できた。入館時，グループごとに，参考資料として，③袋の中身カードと④ポスター用画用紙が渡された。

ライブラリー・commonsでは，グループでテーブルを囲んで向き合う形を作ることができる。話し合っ，持ち出し品を決めた後，ポスターを作成し，ワークシート，事前課題と共に提出し，解散した。図3は，実際に描いたポスターの一例である。

4. 授業の効果

(1) 災害時持ち出し品の決定

授業内容について質問した結果を表1に示す。災害が起こって避難するときに持ち出すものは，個人で考えたときに，1個しか思いつかなかったものが2名，2個書いたものが8名とほとんど思いつかなかったものもあったが，113名が記入した個数の平均は5.4個であった。最大は12個であった。グループで話し合うことにより，持ち出し品の平均個数が11.9個に増えると同時に，全体の約97%が必要な理由を書くことができたと答えている。

質問3の必要な品10品を選ぶのは簡単だったかについては，想定年齢70歳女性の必要な品を決めるのは18歳や35歳を想定するより難しいと43.6%が答えている。想定年齢が離れるほど，その生活を想像するのは難しいことがうかがえる。感想にも「必要な物を考えるのが難しかった。」「たくさん物を持って避難できるかが心配である。」などの記述があった。

質問4では，年齢や状況により持ち物は変わると94.7%が答えている。想定年齢18歳は自分自身がそのような状況だったらと想像しやすく，子どもがいる状況や高齢を想定するのは難しかったけれども，18歳よりもさらに必要な物が増えることに気づいた。

最後に，今後の生活に生かせるかとの問いには，92.9%が生かせると答えた。

(2) 気づいたこと・感想の記述

ワークシートの記述欄の中で，特に生活に関連のある部分を抜粋し，表2に示した。生活を振り返って「たくさん物に囲まれて生活している」「本当に必要なものが何なのか」考え，「状

表1 授業内容に対するアンケート結果

質問項目	想定年齢 回答	回答割合(%)			全体 (n=113)
		18歳女性 (n=37)	35歳女性 (n=37)	70歳女性 (n=39)	
①持ち出し品が すぐ決まった	はい	83.8	100	76.9	86.7
	いいえ	13.5	0	15.4	9.7
	わからない	2.7	0	5.1	2.7
	無	0	0	2.6	0.9
②選んだ(必要な) 理由を書くことが できた	はい	100	94.6	94.9	96.5
	いいえ	0	0	2.6	0.9
	わからない	0	5.4	0	1.8
	無	0	0	2.6	0.9
③必要な10品を 選ぶのが簡単	はい	56.8	62.2	46.2	54.9
	いいえ	35.1	32.4	43.6	37.2
	わからない	8.1	5.4	7.7	7.1
	無	0	0	2.6	0.9
④年齢や状況に より持ち物は 変わると思う	はい	94.6	100	89.7	94.7
	いいえ	0	0	2.6	0.9
	わからない	5.4	0	2.6	2.7
	無	0	0	5.1	1.8
⑤今日の内容を 今後の生活に 生かすことが できる	はい	91.9	100	87.2	92.9
	いいえ	0	0	0	0
	わからない	8.1	0	7.7	5.3
	無	0	0	5.1	1.8

況によって必要なものは変わってくる」「人によって大切なものが違う」などの気づきがあった。

また、いざという時のために「家でも準備をしておきたい」「備えておくことが大切」「家族で話し合っておく」などの記述が見られた。

(3) グループワークへの参加度

グループワークへの参加についてのアンケートを行った。各項目について5段階で自己評価した結果を図4に示す。話し合いへの参加は、5点が80.5%、4点が11.5%で、積極的に参加したことがうかがえる。意見を聞く態度は5点が85.8%、4点が9.7%と非常に高い評価である。リーダーシップがとれたかについては、5点が45.1%、4点が23%、3点が25.7%であった。司会役となったり、意見をまとめたりするのは苦手かもしれないが、グループの中では話し合い、協力してポスター製作ができた。

(4) 事前課題の意味

震災や防災に関する知識が乏しいことが予想されたので、授業前に課題を与えた。事前課題の提出を評価に含めることで、提出率は上がったと思われる。ワークシートの記述には、「課題で防災の本を読んでいたので、その知識が役立ちました。」と書かれたものがあった。1冊の本を読んだだけではあるが、知識が向上したと実感したのがわかった。

表2 ワークシートの記述例

生活との関連を考えた『記述』 — 気がついたこと、感想から抜粋 下線は筆者による

A	<u>人によって生活する上で大切なものが違うことが、意見を聞くことでわかりました。</u> 普段生活する上で、自然とそこにあるから使っているので、持っているものが限られている時、何を優先すべきかとても悩みました。
B	<u>私たちが生活する中で、必要なものとは何か考えると、必要なものがわかりました。</u>
C	<u>いざというときに、本当に必要なものが何なのか常日頃考えておくことで、災害のときに備えることができると思った。</u> 状況によって必要なものは変わってくると思うが、必ず要るものは用意しておき、 <u>災害の時にはその必要なものを見極めることが重要と感じる。</u>
D	家では何も用意したり、意識せずに生きているので、いざというときにパッと持ち出せるように、 <u>日頃からの準備が大切だと実感しました。</u>
E	70歳女性ということで、大荷物だと大変なので考えるのが難しかった。 <u>自分の場合は何を持っていけばいいのか考えて用意しておくことが大切だとこの時間で学んだ。</u>
F	平和で何不自由なく暮らせる今、この状況のことを考えても、口ではぼんぼん何でも言えるけど、いざその状況になると身動き(でき)なくなるだろうし、 <u>常日頃から意識していかないといけないな</u> と思った。
G	グループで選んだもの以外にも震災にいざあってみてからあった方がよかったなと気づく物もあると思います。でもあらかじめ震災がおこることを想定していれば、あせらず落ち着いて行動できると思います。
H	10品ではおさまらず、もっとたくさん必要なものはあるので、 <u>日頃からたくさん物の物に支えられて生活しているということもわかりました。</u>
I	水や非常食など毎日利用しているものはすぐに浮かんだけれど <u>あたりまえだと思って</u> <u>気にとめていなかったビニール袋やウエットティッシュもよく考えたらたくさんのに使えるし、とても大切なものであることをグループで話し合ったことで気づくことができました。</u>
J	家には便利なものがたくさんあるけど、電気がないと使えないものは地震などの災害のとき使えないので、本当に地震が起きたら大変だと思いました。
K	水や電気やガスが使えなくなった時のことを考えて、持ち物を選ぶことが大切だと思いました。
L	缶詰にもやはり期限があるので、それも含めて用意をひんぱんに替える必要があるようです。
M	食料は缶詰など消費期限(賞味期限)が長いものを準備しておくことが大切で、消費期限(賞味期限)がきれていないか確認することも大切だと思いました。 * ()内は筆者解釈

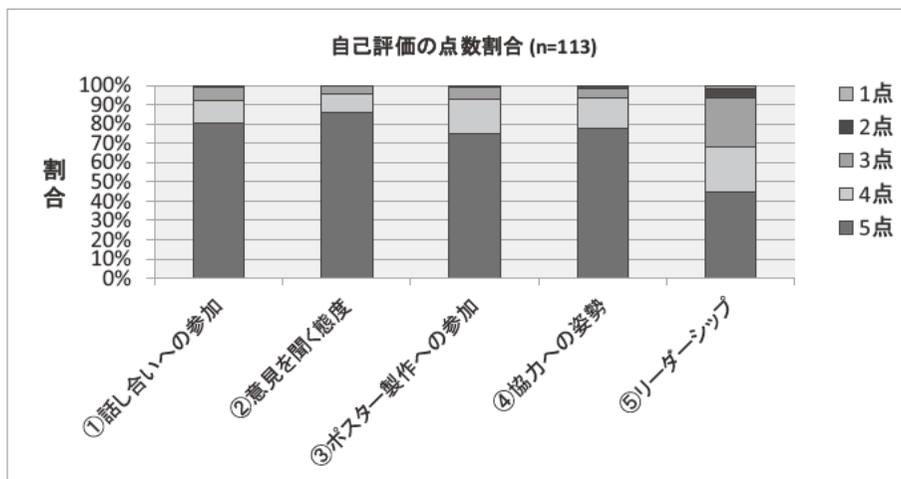


図4 授業態度の自己評価

5. おわりに

授業の目標はほぼ達成することができた。学生たちの感想にも筆者の意図した「気づいてほしいこと」がたくさん書かれている。また、他の人と話し合うことにより、自分と違う考え方があることに気づき、普段は考えない状況を想像した。時間内にまとめるという締め切りがあったためか、課題提出したら終了としたためか、積極的に取り組んでいた。

非常持ち出し品、10品を選ぶことを課題としたが、90分の授業で、選ぶことは難しいし、その人の状況によって必要な物は変わる。選んだ品物に正解を求めているのではなく、選ぶ過程で気がつくことが多ければいいと考えている。

90分1コマという時間の制約のために、まとめの発表まではできなかったが、ポスターをライブラリー・コモンズに展示し、自由にコメントを書いてもらうなど工夫の余地はある。今後は、グループでまとめた結果の発表方法について検討したいと思っている。

引用文献・参考文献

- 1) 一般社団法人 日本家政学会編：家政学からの提言 震災にそなえて、一般社団法人 日本家政学会 (2012)
- 2) 水上弓枝：東日本大震災を経て考えた家庭科教育とは（シンポジウム 東日本大震災と家庭科教育—家庭科は復興にどのようにかかわるか—, 日本家庭科教育学会第56回大会報告), 日本家庭科教育学会誌 56(3), 158-159, 日本家庭科教育学会 (2013)
- 3) 望月一枝, 倉持清美, 妹尾理子, 阿部睦子, 金子京子編著：生きる力をつける学習—未来をひらく家庭科—, 教育実務センター (2013)
- 4) 文部科学省：防災教育の展開 (http://www.mext.go.jp/component/a_menu/.../1334780_04.pdf)
- 5) 神戸学院大学 防災・社会貢献ユニット：防災教育指導要領 家庭科 (<http://www.kobegakuin.ac.jp/~gakusai/bosai/html/7.kateika.pdf>)